

挑戦

～稲成ナスを育てて～

区分 生産 和歌山県立熊野高等学校
総合学科 3年 小杉 里緒
3年 折戸 律華
3年 土山 真由

エントリーした理由

私達の身近に地域オリジナル野菜が長きに渡り栽培されていることを地元新聞の紹介で知りました。そこで、私達も栽培農家さんのご指導を受け、「種」の保存の一助になればと思いプロジェクトを立ち上げました。

みなさん、稲成ナスを知っていますか？

2014年7月12日付けの地元新聞に「希少「稲成ナス」収穫期、たなべ 代々種を採り育てる」との見出しで紹介されていました。そこで、私たち熊野高校農業クラブでは西牟婁振興局に問い合わせをしました。担当は橋本さんという方で私たちのプロジェクトの内容を伝えると快く栽培農家さんに連絡をし、「稲成なす」の種子が手に入るようお願いして頂きました。

稲成ナスとは、和歌山県田辺市稲成地区のオリジナル品種で、千年以上の昔から稲成町で栽培されてきたナスです。

地元では金山寺味噌の具材として利用されていますが、皮がやわらかく、アクもないのでどんな調理法でも美味しくいただけるとのこと。

また、稲成ナスは「丸なす」の一種で、和歌山県田辺市稲成町荒光（アラビカ）地区の栽培農家によって種（たね）が守られ、約100年前から栽培されて来た。という事を知ることが出来ました。ほかにも、「稲成なす」は果形が丸く、ふくれていて、きんちゃく（巾着）に似ていることから、「きんちゃくなす」とも呼ばれていることもわかりました。

ところがこのナスは、樹勢が弱い、収量も少ない、栽培も難しいということから、梅への改植が進み 年々、稲成ナスの栽培農家も減少しているとのことでした。

そこで、私たちは、プロジェクトの目的を立て「稲成なす」の栽培に挑戦することにしました。

目的1、稲成なすの「種」の保存を目指す。

目的2、稲成なすの「地域への普及活動」を目指す。

目的3、稲成なすの「新しいレシピの開発」を目指す。 の、以上3つを設定しました。

田辺市は、平成17年5月1日、旧田辺市・龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町の5市町村で広域市町村合併により誕生した紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置しています。

稲成ナスの発祥の地は、和歌山県田辺市稲成町荒光（アラビカ）地区で高速道路の南進によって開設された南紀田辺インターを降りた稲成ランプすぐに位置します。

また、本校が位置する西牟婁郡上富田町からは約8 kmの位置にあり、農業が盛んで多くの野菜や果樹が栽培されています。

昨年の7月に「稲成なす」の種子が手に入らないかとお願いをしていた、西牟婁振興局の橋本さんから「栽培農家さんから「稲成なす」の種子を頂きましたよ。」との吉報が入りました。

とうとう、待ちに待った「稲成なす」の種子が私達の手元に届いた瞬間でした。

いよいよ、播種ですが緊張のあまり、無口になるかと思いきや、いつもの仲良し3人組の会話で作業もスムーズにでき、1人72穴トレイを簡単に終わらせてしまいました。今年は、目的1 [種] の保存を目指す。を念頭に置いた結果、播種数が少なくなりました。

気温・地温・湿度は、播種日 {2/24} の翌日 [2/25] から鉢上げ日 [3/25] までの約1ヶ月間、測定時間は午前7:45~午前8:00頃までと決めて、アナログ式とデジタル式を利用し測定を行いました。土曜、日曜は日直の先生にお願いして記録をとっていただきました。

約一月間の測定結果をグラフにし、平均値を出してみました。

平均気温は 17.4 °C

地温は 24.0 °C

湿度は 43.5% の様な結果となりました。さらに発芽本数も記録に加え調査してみました。発芽を初めて確認した日は、3/5 (木) の12本で、翌日の6日は53本、7日の86本、8日の103本と順調に発芽数を増やして行きました。

最終的に3/25 (水) の162本となり、これ以降の増加は確認できませんでした。

播種日から約2週間後、3/9 (月) の様子です。

発芽率は66.2%

気温は17°C

地温は24.5°C

湿度は30% でした。

播種日から約3週間後3/15 (日) の様子です。

発芽率は74.0%

気温は18°C

地温は26.0°C

湿度は20% でした。

播種日から約一月後、3/25 (水) の様子です。

発芽率は75%

気温は13°C

地温は19°C

湿度は40% でした。 そろそろ鉢上げを考えてはどうか？

播種後約1ヶ月あとの、3/25 (水) の様子です。

ジフィーポットを草花部門からいただき苗162本、全てを鉢上げしました。

鉢上げ後から約3週間目4/13(月)の様子です。
本葉(ほんば)3~4枚、草丈10cm程度まで大きくなりました。

鉢上げ後から約一ヶ月4/27(月)の様子です。
本葉が成長し、苗全体が一回り大きくなりました。

鉢上げ後から50日目5/13(水)の様子です。
本葉がさらに成長し枚数も増加しています。苗全体が二回り大きくなりました。

5/16(土)、「稲成なす」を栽培している榎本哲也さんにいろいろと質問をし、貴重な栽培ノウハウをお聞きすることができ、大変勉強になりました。中でも、ヨトウムシ対策として地際部にアルミを巻くと70%の割合で食害にあわずに成長すると聞きました。

また、圃場まで案内していただき、定植時の諸注意等のアドバイスをいただきました。

栽培農家では、
株間 100cm 畝間 150cmとし、きれいに定植されていました。

3/25(水)鉢上げ後、約2ヶ月目の5月22日に定植をしました
株間 100cmで、ガラス温室に13株とパイプハウスに96株の定植を行いました。

農家訪問の際に、榎本さんから地際部にアルミを巻くと70%の割合で食害にあわずに成長するとお聞きしていたので忘れずにアルミを巻きました。

ここまでは順調に生育しています。 次の作業は「枝つり」作業です。
「稲成なす」の枝をつる方法がわからず困っていた、私達のもとへ先生が来て
「榎本さんが、枝のつりかたを教えてくださいから農家訪問の準備をしておくこと」との連絡が入りました。

ナスの枝つりには、「筋い結び」が必須だと圃場で聞かされましたが、[筋い結び]を知るものが誰1人としておらず、結び方から特訓を受けました。
40分~50分後、ようやく筋い結びが出来るようになりました。

早速、圃場では榎本さん直伝の「筋い結び」の実習が始まりました。
さらに、20分~30分かけて4~5株の「なす」の枝つり作業が終了しました。

お仕事の途中にもかかわらず、大切な時間を私達のために、とっていただき感謝いたします。
今日、榎本さんから学んだことを学校に帰り、明日以降の枝つり作業にいかしたいと思います。

6/23(火)放課後、ガラス温室の一行のみ、「筋い結び」で枝つりを終わらせること

が出来ました。

前期の期末テスト前には、パイプハウスの枝つりを終わらせたいと計画をしています。

定植から41日目の7/2（木）午後1時過ぎに、西牟婁振興局、農業振興課から橋本さんが来校。

ガラス温室とパイプハウスの「稲成なす」の生育状況を見て頂きました。

「思っていた以上に生育が旺盛で、うまく育てられていますね。」「ありがとう。」と、感想を言って下さいました。

「パイプハウスの方も、きんちやく型になってきているので、収穫可能な果実がありますね。」と橋本さんに教えて頂きました。

今後の活動内容は、

- 1、稲成ナスの整枝（せいし）・せん定をおこない、樹形の変化を調べる。
- 2、稲成ナスの販売を熊高市場でおこない、地域へのアピール活動をおこなう。
- 3、採種をおこない、地域への普及を目指す。

今後の課題は

- ①播種数が216粒と少なく、発芽率も75%で目的②の「地域への普及を目指す」を達成するには不十分であった。事実、お譲りした苗は、町内の岡婦人会へ苗20本のみであった。
- ②今年、施設栽培のみであったため次年度は露地栽培にも挑戦したい。
- ③今年実った果実から採種した種子を使って目的①「種（しゅ）の保存」 目的②「地域への普及を目指す」を達成したい。

私達にとって、初めて取り組んだプロジェクトは非常に短い期間でしたが、身近なところで大切に育てられている当地方のオリジナル野菜があることを知り、代々[種]を採りながら守っておられる方々と直接話す機会を持てたことを忘れずにしたいと思います。

来年度以降は、私達の内容を受けて、後輩達に頑張ってもらえたらと思っています。

これで私達の発表をおわります。